

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年4月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672700145
法人名	有限会社 ひまわり苑
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	鹿児島県南九州市川辺町上山田4239番地5 (電話) 0993-58-9038
自己評価作成日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4丁目2番6号
訪問調査日	令和3年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・周りに自然が多く、民家もあり、住みやすい環境にある。木や花やことり、野菜から四季を感じられる。
- ・レクリエーションが、体操、歌、脳トレなど多様化しており、その日に合わせて、変えている。脳トレは、いつでも自由にできるので、自分で楽しめる方も多い。
- ・つわぶきや、ゴーヤなど、近所でとってきたり、菜園をつくりそこでとれた季節の食材が食卓に上ることが多い。また、近所の方や、ご家族様が野菜の差し入れを下さったりする。昔ながらの食べ慣れた料理を提供している。また、それぞれの好みのものを把握し、提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は「ゆっくり、共に、楽しく」をモットーに地域の中で野菜作りをしたり、地域の一員としての暮らしがある。
- ・ホームは、看護師が常勤して健康管理を行い、協力医療機関との緊急時の連携が取れており、家族の安心につながっている。
- ・自治会に加入し情報を得ている。日常の対話も自然体であり野菜の差し入れ等がある。
- ・郷土料理やつわぶき等を使い、利用者に馴染みの食生活で楽しんでいる。桜の季節には、公園で菓子や飲み物を持参して楽しんでいる。
- ・「苑便り」を発行してホームの状況を知らせ、家族に安心と信頼関係ができています。
- ・職員間のコミュニケーションが良く、意見等で、デッキを設置し、お茶会等を行い、楽しんでいる。
- ・利用者の椅子は使いやすいように個々に合わせ、足置き台を作り思いやりがある。
- ・施設長は職員が働きやすい環境を整えている。リフレッシュ休暇制度を導入している。資格取得や研修会参加に協力的であり職員も意欲的である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事務所やトイレなどスタッフの目に付くところに掲示している。折に触れ、理念の話はしている。	理念は事務室やトイレ等、職員が行動する場に掲示し、毎日の申し送り時に唱和し、ケアが理念に基づいているか常に管理者は職員と話す機会を持っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の予防の為、また行事の縮小や中止で交流は減少している。災害時の協力は継続してお願いしている。また、小学生とは会えないが、メッセージのやり取りは行っている。	自治会に加入し地域の情報を得ている。コロナ禍であり、地域の年間行事は中止となった。利用者と職員で季節行事は、事業所内で実施し、気分転換を図ることができた。小学生の交流も中止となったが、利用者にとんぐりの置物や千羽鶴・メッセージがプレゼントされた。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症のことや介護サービスのことを聞かれることがあり、対応している。但し、ホーム側から積極的に介護のことで地域に働きかけていることはない。今後の課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症の影響で、委員に出席してもらったの運営推進会議はまだ1回で、文書での運営推進会議になっている。アンケートを書いてももらったり、なるべく意見を書いてもらうように工夫している。	運営推進会議は、今年度1回開催した。その後は、文書で事業所・利用者・面会状況やコロナ感染防止対策・アンケート報告等を発送し、意見を返送してもらった形式にした。意見要望等の把握ができるよう今後の課題としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナウイルス感染症の影響で運営推進会議も書面になり、直接会う機会も少なくなった。メールでのやり取りはあるが、例年に比べると、やり取りは少なくなっている。	役場へ出向き相談している。メールや電話等でも連携を取っている。行政からは適宜情報を受け運営に活かしている。Zoom研修の為、環境設定に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化対策検討委員会を設置し、おおむね3か月に1回実施。運営推進会議が、書面になり、ホーム内で小規模に行っている。その後、運営推進会議の書面で、報告している。身体拘束や虐待、倫理観について研修は実施している。（書面で）	委員会を3ヶ月毎に開催している。年に2回は、マニュアルを基に勉強会を実施し、日常の中で利用者同士のトラブルや歩行不安定の対策等を話し合い、ケアに活かしている。日中は玄関の施錠はしていない。外出希望者には、職員で連携を取り、気配りして園内で対応できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員とも、虐待の実績はなく、研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	時期を見て、成年後見人制度を活用しようかという入居者様がいるため、制度については学んでいる。コロナウイルス感染症の影響もあり、話が進んでいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、事前に契約書等を渡し読んで頂いた上で、説明を行っている。理解納得できたか確認し、契約や解除の署名・捺印をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時は、事前に契約書等を渡し読んで頂いた上で、説明を行っている。理解納得できたか確認し、契約や解除の署名・捺印をもらっている。	利用者からは日常の関わりの中で声かけしたり、お茶や食事の時に聞いたり、入居者同志のおしゃべりの中から思いを把握している。家族には便りや手紙・写真を送り、近況報告をして意見を聞いている。面会制限の中、窓越しに実施し、家族も喜んでいて。自由に面会できる日を心待ちしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝のミーティングや日常会話の中で、意見や提案を聞いており、解決に向けて取り組んでいる。	ミーティングや日常の関わりの中で意見や提案を聞いている。毎日が話し合いの場になっている。職員の意見でデッキを設置し、外気浴やお茶会の場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休みをなるべく取れるようにしており、他の法人よりは希望が取れやすいと思う。リフレッシュ休暇制度を導入した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新型コロナウイルス感染症で、外部の研修もZOOMで行われ、設備がまだ整っていない為、参加できていない。内部の研修は、資料を各自読んでもらったり、ユーチューブを見てもらったりして意見をもらっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で、ZOOMでの会議や研修になっているため、交流はできていない。管理者同士は電話で交流している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会して、話を聞いている。入居が決まったら、家族にも希望を聞いたりして不安なく入居できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際より、困っていることや心配事など聞き取り、相談に乗っている。面会時に近況を説明するとともに、家族の不安や、相談を安心して話していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネや病院の相談員から、情報提供を受けて、家族からの情報や希望とあわせて検討し、入居が適正か判断している。1例相談員や包括支援センターの看護師が情報を隠したり、間違った情報を提供されたが、看護助手と言語聴覚士の情報で実態が分かり、適正でない判断し入居を断った。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒につわや柿をむいて、作り方を入居者様に尋ねたりしている。日常的に能力や意向に合わせ、洗濯物たたみや、新聞・ちり紙折などできることを行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会もできない状況が続いたが、デッキを作り窓越しの面会ができるようにした。また、請求書を送る時に写真や手紙を同封したら、大変喜ばれた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会も制限したため、家族以外の方との交流はなくなっている。家族との交流を持続させることに精一杯だった。	家族の面会が多く、電話の取次ぎ等も行っている。利用者は、外気浴を短時間しているが、地域との交流は自粛している。敷地内の花見を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やレクリエーションを通し、気持ちを共有し一緒に暮らす仲間であると認識できるように支援しているが、ここ数年、世代の違いなのか、口論などのトラブルが多い。仲裁やフォローの支援をしている。コロナ禍でのソーシャルディスタンスという点では取れていない。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もフォローする準備はあるが、今年度は、機会はなかった。入院している退居者については、その病院の相談員等と話す機会があれば様子をたずねたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から食事の希望については、よく聞いている。昨今は、自分の意向を自ら口にする方もおられるが、改まって聞いても言わない方も多いため、日頃の会話などから把握するように努めている。	フロアで利用者と昔話や世間話をしたり、レクリエーションの時等に希望を聞いている。買い物や外出等の希望はなく、「刺身が食べたい」とのことで、刺身を提供して喜ばれている。干し柿づくりやつわの皮むき等で食に関する思いが多く、取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅のケアマネや病院から情報提供を受けたり、入居時にご家族や本人様から聞き取っている。入居されてからも、日頃の会話の中で生活歴等聞き取り価値観の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で、引継ぎや日頃の会話、介護記録で状況を把握・共有している。職員の客観的判断によるものなので、捉え方の違いもある。具体的なスケールのようなものがあれば共有しやすいかと思う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族から希望や意向を聞き、スタッフ、受診時の医師の意見等集約し、評価・アセスメントの結果を踏まえながらケアプランを作成している。	本人・家族・必要な関係者から意向を聞き、主治医の意見を基に介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施し、見直しは6ヶ月で行い、状況変化の時はその都度見直しして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯・夜勤帯ともに介護記録を記入。バイタルチェック表・や業務日誌も合わせ、見直し、評価、アセスメントに繋げている。病状などにより、個別の排泄チェックなども行っている。もう少し具体的な状況が書かれていればというケースもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でかなり制約を受ける一年だったが、その中で家族とのつながりを切らさない為、電話や手紙、写真で状況を知らせるなど普段より働きかけはくふうして取り組んだ。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でなかなか共同ということも難しい年だったと思う。小学校との交流を働きかけて復活したが、小学校からの贈り物を先生が持ってこられ、職員が受け取り、メッセージのやり取りしかできなかったが、来年以降に向けての布石とはなった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居の際に、本人様やご家族の希望により、決めている。なるべく入居前のかかりつけ医を継続して受診できるようにしている。受診介助もご家族が行うか、ホームで行うか相談して決めている。今年度は、受診を職員が代行しないといけない時期もあった。	本人及び家族の希望するかかりつけ医となっており、受診は、家族の希望で行っている。遠方や家族が同行できない場合は、職員看護師が同行している。受診結果は、家族へ電話で報告している。毎日の健康管理を行い、月1回程度のかかりつけ医の定期受診がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携加算は取っていないが、看護職員が常勤しており、日頃の健康管理、医療的な部分で相談しながら支援している。受診介助も、看護職員が行っている。受診した結果や薬の変更も、介護スタッフ等にフィードバックされている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、サマリーを提出したり、立ち会って情報提供したりしている。入院中も定期的に面会に行ったり、家族や相談員等から情報をもらっている。退院時も病院側から情報をもらい、状況を判断しつつ退院に向けての支援をしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携加算も取っておらず、ターミナルへの対応もしない方針である。浴室浴槽など設備も対応していない為、重度化した場合には特養などへの転所を家族に相談するが、最後までここで見てもらいたいという希望もあり、対応できる限り支援している。食事摂取ができるまではホームで対応するケースが増えている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針は入居時に家族と話し合いをしている。食事が摂れなくなって医療行為が必要になった時は、特別養護老人ホームか医療機関への転移を家族に相談している。家族の意向もあり、主治医や職員の協力体制で、ホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>今年度は、コロナ感染症予防の為、消防署員に来てもらえず、自分たちで行った。例年は、救命救急講習、消火避難訓練を年2回行っている。今年度は、コロナ感染症予防や起きた場合の備えなどマニュアル作り、シュミレーションを行った。</p>			
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年度は年2回の消火避難訓練も、コロナ感染症の影響で自分たちで行った。自動通報装置・スプリンクラーの設置もしている。避難ルートを確認したり、持ち出しリュックの点検も年1回行い、折に触れてスタッフとも話し合っている。</p>	<p>年に2回の消火避難訓練は、今年度はコロナ禍で消防署立ち合いは中止となり、自主消火避難訓練を実施した。住民の協力も得ているが、今年度は中止とした。災害時の備蓄は、水・カップめん・乾パン等、3日分準備している。地震の避難訓練も検討している。避難場所・避難経路を確認し消火器・スプリンクラーの防災設備の点検は業者が定期的に行っている。防災頭巾・ガスコンロ・ガスボンベ等も準備している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の声かけなど、入居者が恥ずかしい思いをしないよう、さりげなく行い、人格を尊重する言葉かけや対応を心がけている。個性や背景を把握し、スタッフ間で共有し、対応している。	年1回研修会を開催し、名前はさんづけで呼び、入浴介助・トイレ介助等、言葉かけにも配慮して、プライバシーを損ねないようにしている。接遇マナーについては、職員間で注意できる関係を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で希望や意見を表出できる方も多い。日頃、表出できない方については、さりげなく会話の中で聞いたりしている。おやつやお茶、着る服など、選択の機会を作り自己決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	作業やレクリエーションも強制はせず、自由な時間ももうけている。スタッフの価値観を押し付けるのではなく、入居者の価値観を理解できるように努めているが、難しい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	どれを着るのか本人様に決めてもらったり、希望のない方には、これでいいですかと聞いている。多少おかしいと思ったり、着すぎる方には、その方の個性を尊重しつつ、少し助言する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のもの、郷土料理や行事食を取り入れて工夫している。つわを剥いたり、大根を干したり自分たちが携わって作ったものを材料に使うと喜ばれる。嗜好を知り、好きなものが食べられるよう、努めている。	職員が献立を作成し個々に応じて調理している。食材は、旬の物を取り入れ季節感のある献立にしている。郷土料理や行事食を提供している。春はつわ料理をしたり、桜の花見では庭で食事を楽しんでいる。希望の多い刺身も食卓に出ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、少し無理してでも、何度も声掛けし飲んでもらっている。飲み物もコーヒーや紅茶、野菜ジュース等に代えたり、お茶に黒糖を少し入れ飲みやすくしたりと工夫している。食事量は毎食チェックしており、形態を変えたり、分食したり、好きなものを用意したり、摂取量が少ない場合は工夫している。どうしても食事で栄養量が足りない場合は医師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の能力に応じた口腔ケアを行っている。自分で義歯を洗っても不十分な方には、先に職員が洗っておいて、自分で洗ってもらったり、洗口液やスポンジブラシを使ったりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、自立にむけた支援に取り組んでいる。介助が必要な場合にも、個人に合わせ、介助に入るタイミングや声かけの仕方を工夫している。必要があれば、排泄パターンの表を作って、共有している。	排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を支援している。パット類は個々に応じて使用している。声のかけ方やタイミングを見て支援している。本人自らトイレへ行くようになった事例もある。夜はポータブルトイレ使用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取・運動・食事に気をつけている。排便を記録しており、医師の指示の元、下剤もその方に合うように調整している。牛乳を毎朝出したり、ヨーグルトや豆乳を試してみたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者の希望を優先しながら、体調を見て、個々に応じた入浴ができるように支援している。	入浴は週に2~3回午後に行っている。転倒や湯温に注意し安全で気持ちよく入浴できるように支援している。入浴を拒む利用者には時間をずらしたりタイミングを見て声かけして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく眠れるように気温調整に努めたり、雨戸まで閉めたりしている。寝る時間も、個人やその日の体調・行動によりさまざまである。よく寝ているのに睡眠の満足感が得られていない方の対応が難しい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書をケース記録に綴り、いつでも見れるようにしている。変更があれば申し送っている。配剤ケースを作り、入れる時、持って行くとき、配剤の時確認し、誤薬を防ぐようにしている。服薬時も、落としたり、吐き出したりする方もいるので飲み込むまで確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>チリ紙や新聞折り、チラシ折、洗濯ものたたみ、料理の下ごしらえなど、能力やその日の希望により、行ってもらっている。レクリエーションも体操や脳トレなど多様化しており、脳トレなどは好きな時にできるように置いてある。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナウィルスの影響で、外出も減ったが、感染症予防に配慮しつつ、ひまわりの見物に出かけたりした。</p>	<p>外出の年間計画は自粛し、天気の良い日は近隣の散歩や外気浴をしたりデッキに出て洗濯物を取り入れたりしている。菓子と茶持参で事業所駐車場で桜や向日葵の花見に出かけている。レクリエーション等で気分転換の支援を図っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持っていないと心もとないと言う方には、スタッフと家族で所持金を把握し面会の時チェックしていただくよにしている。基本的には、物盗られ妄想の方もいるので、なるべく持ってもらわず、必要な場合は、立て替えている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の希望があれば、無料でかけてもらうが、難聴の方が多く、あまりこちらからかけることはない。携帯電話を持っている方は、約束事を作ったうえでかけてもらっている。年賀状は出せるように支援したりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の好みが違うので、温度・光・風の調節は、声かけし、意見を入居者に求めながら、バランスを取れるよう行っている。が、忘れてしまう方もおり、窓の開閉で口論になることもあった。冬は、トイレにヒーターを置いている。	フロアは室温・湿度・換気に配慮し、丸テーブル・椅子・テレビ・エアコン・仏壇・神棚を設置している。壁には貼り絵など季節の作品を掲示している。窓は2段作りで、換気は上の窓で調節している。和室もあり、一人ひとりの好みで、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きなどころで過ごせるようにしてあるが、ソファの座る位置でもめ事になったりすることもある。仲裁してもすぐ忘れてしまい、同じことを繰り返すことがある。ソファの位置を変えたり、椅子を増やしたりして工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は家族の方と一緒にレイアウトしている。普段使うものをベッド上に置きたい方もあり、本人様の意に添うように工夫している。毎朝掃除し、清潔に過ごせるように気を付けている。	ベッド・エアコン・タンスを設置している。本人の使い慣れた寝具やラジオ・時計・衣装ケース等を持ち込んでいる。家族写真や手作り作品を飾り、居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、お風呂など手摺がついており、安全になるべく自立した生活が出来るようになっている。ベッドの高さも、一人ひとりの筋力や立ち上がり、転落の危険性を考慮し、調整している。居室入り口に、ヒマワリの表札を付けて、自室を分かるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない